

資料5 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	テーマとの関連（評価）（省略） 指導上の留意点（省略）
課題の把握	1. 前時の学習内容を整理する。 ○確認テストをやり、自己評価する。 ○疑問点を出し合い班で解決に努力する。 2. 学習課題を把握する。	10	1. 前時の学習内容の定着をはかるために確認テストにとりくませる。 2. 本時の学習課題を把握させる。 (電熱線の両端の電圧を変えたと) 流れる電流はどうなるか。	○確認テストにとりくむ。 ・自己評価する。 ・班になり、疑問点を出し、解決する。 ・班で解決できない問題については、教師に質問し、解決をはかる。	
情報の処理	4. 実験結果を班ごとにまとめ、課題を検討し発表する。	10	○実験結果を班ごとにまとめ、課題を検討し、発表させる。 ・電圧と電流の大きさをグラフ化するように指示する。 ・電圧と電流の関係をグラフから考察させる。	○班内で実験結果を発表しあいまとめる。 ・電圧と電流の関係をグラフ化する。 ・電圧と電流の関係を考察し発表する。 ○ワークシートの到達度目標（グラフ・考察）を班内でチェックする。	
学習内容の確認	5. 本時の学習内容を整理する。 6. 次時の学習課題を確認し、本時のとりくみについて、自己評価する。	5	5. 本時の学習内容をワークシートに整理させる。 6. 次時の学習課題を確認させ本時のとりくみを自己診断表を使い自己診断表する。	○電圧と電流は比例することを、ワークシートに記録する。 ○次時の学習課題を確認する。 ○自己診断表の各観点を自己評価させる。	

(考えたか、積極的にとりくんだか) を入れ、到達基準を決め、○△×でチェックした。(到達基準は省略)
(資料・行動目標到達度は省略)
(4)(5)を用い、観点別の到達状況一覧をつくり、四つの観点について、到達度を評価した。(資料省略)

(1) 四 授業の組織
指導過程のなかに、確認テスト、相互評価、自己診断表による自己評価を組織し、検証授業を試みた。具体的な内容ア〜エは省略する。(資料5)

(2) 個別指導の工夫(内容省略)

(5) 行動目標の到達度、意欲等を把握する。

六 検証授業
内容省略

(一) 学習意欲を喚起する評価の工夫
(二) 確認テストを実施したことにより
(三) 生徒の反応

確認テストに対する生徒の反応は資料6のとおりである。このことから生徒たちは、確認テストの多くのメリットをあげ、このテストのねらいがほぼ達成できるものであったことがわかる。これによって、生徒たちは、わかる喜び、グループでの助け合い学習の楽しさを感じ、意欲的に活動できたと思われる。

② 行動目標の到達度
資料3の事後、把持テストの正答率をみると七十パーセント前後が多く、把持率も、ほとんどが高い値を

資料6 確認テストに対する生徒の反応

1. 確認テストは学力向上に役立ったか

(+: 役立った 0: ー -: 役立たなかった)

	男子			女子		
	ー	0	+	ー	0	+
1 組	2	14	5	6	12	4
2 組	2	7	14	3	8	11
3 組	2	12	8	0	16	6
4 組	2	13	7	3	11	9
全体数	8	46	34	12	47	30

② 行動目標の到達度
行動目標⑭の到達率(男子九十六パーセント)
⑮の到達率(男子九十五パーセント)

(2) 観察、実験の場にワークシートによる相互評価の場を設けたことにより

① 相互評価に対する生徒の反応と観察、実験への取り組みの変容
調査資料によると相互評価に関する生徒の反応は、観察、実験に意欲的な態度を示すようになったことを表している。生徒同士で評価することや、グループ内での助け合いや協力することの楽しさ、喜びを感じてきた生徒が多かった。

示していることから、学習内容の定着は、よいようである。